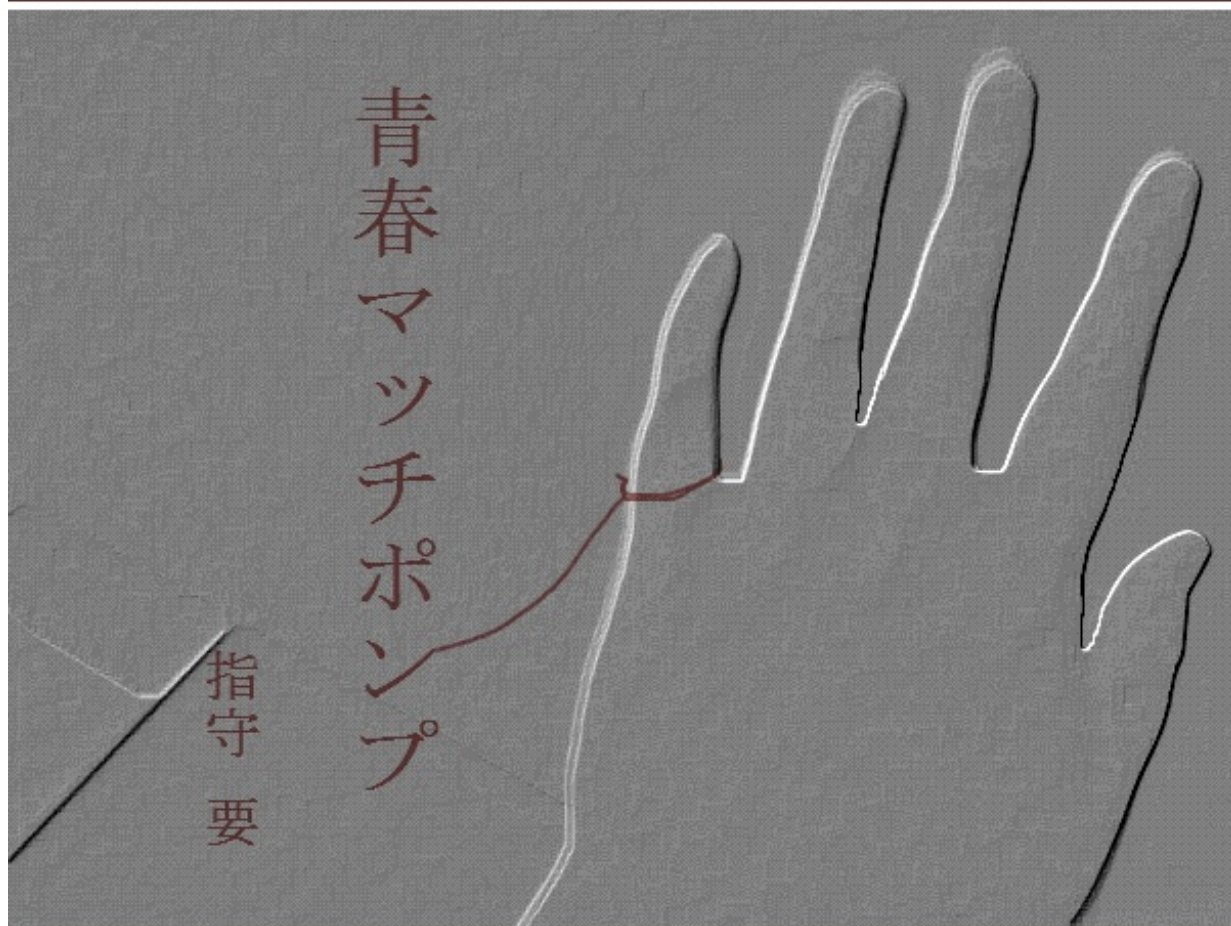


青春マツチポンプ

指守要



青春マッチポンプ

今日も私はこの部屋で
架空の青春に思いをはせます

窓から見えるのは暗い空
心の中はいつも彩り溢れた世界
現実ではないのかと問われれば
現実ですと返します

どんな青春描きましょう
生産生産 1. 2. 3. 4...

昨日は悲恋に溢れていました
これではいけない
幸せな夢に入るために
私はまた妄想にふけるのです

どんな人生描きましょう
生産生産 ...16.17.18.19

願い

あなたと一緒に時を過ごせている間
私は孤独から離れることができます

100回のごめんなさいよりも
1回のありがとうを伝えたい

何より大切なあなた
今後どうなるかは分かりませんが
一緒に居られたらと思います

どうかこの願いが叶いますように

安定剤

心が満たされる瞬間

美味しいものを食べていても
趣味に没頭している時も
頭から離れない人が居ます

その人のことを考えているだけで
私の心はあたたかくなるのです

ミサンガ



君との未来を願ったミサンガ

外れるときは
願いが叶ったときか

それとも
君との別れがきたときか

色彩

たった一人の人と出会ただけで
私の世界は色彩が鮮やかになりました

時には真っ暗な闇に閉ざされることもありますが
私はカラフルな世界で泳いでいます

酸欠の魚

その状態から救ってくれたあなた
私もあなたの世界を鮮やかなものに
出来ているでしょうか

2人で人生を泳ぎましょう
出来ればずっと

闇に怯えなくてもいい
カラフルなこの世界で

凜として咲く

凜として咲く花のように
私も健やかに生きたい

何にも負けない強さ
アスファルトを貫く強さ
儚く散る潔さ

まだ
私は弱いままです

色々な人と出会って
少しは変わったでしょうか
立ち止まっていることは
とてももどかしくて

自分の弱さが嫌になります

それでも
こんな私を好きでいてくれる人たちへ

両手一杯の感謝を

抵抗

愛しています

たったそれだけの言葉が

言えない

愛

人を愛したい
人に愛されたい

そう渴望する私に
あなたは愛をくれた

それでも不安になるのは

人を拒み
人に拒まれてきた人間の

ごくごく普通の反応

ありがとう

ふとした時に感じる安心感
素で人と向き合えるとき

誰に対しても恐怖心を覚える私は
ただただ異端で
普通と言うものを知らなかった

こんな心地良さを、知らなかった

私の中から笑顔を引き出してくれたあなたに
心の底からのありがとうを

人間

誰かに愛を注いだことがない
私には
愛すると言う感情はないのです

今まで本心から
その言葉を口にしたことがあったらどうか
理解はしているものの
実感と言うものがまるでないのです

子供の愛のように
愛に恋をしている状態

何時しか
心から言える日がくれば
愛することが出来たなら

私は
人間として生きていける気がする

愛しさ

まるで初恋のようなときめき
あなたに会えるまでの時間がもどかしい

顔を見れば自然と笑顔になってしまう

愛おしい表情
少し癖のある話し方
無意識に出る癖

全てが
私の中の恋を育てていくのです

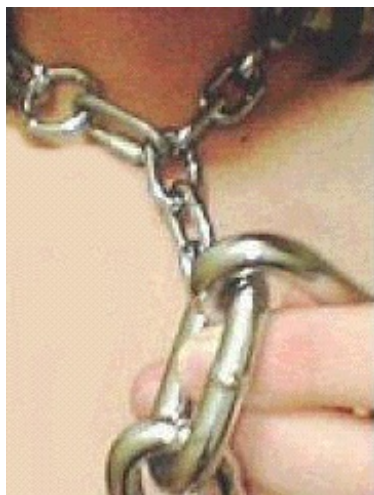
安息の場

ベッドの中で布団に包まり
うとうとしている時間がたまらなく好きです

夢は私を現実から救ってくれるから
それが悪夢だとしても
少しの救いがあれば良いのです

眠れない時間は嫌い
余計なことを考えてしまうから

それが逃避しているだけだとしても
私には必要なこと



離さないで？

幸福の定義

君のためならば
例え奈落に落ちようとも構わない

落ちた先で君の幸福を祈る
それがただの自慰行為だとしても
僕の願いはそれだけだから

どうか
幸せな日々を過ごしてください

ゆびさき

ふと指先が触れただけで心が揺れる

そんな僕を君はからかう

ああ、そんな時間が幸せ過ぎて

大丈夫

したい事が出来なかったからって
自分を責める必要はない

今までの事を悔やむより
これから先したい事を探した方がいい

おざなりに出来ない現状
持てない希望
すぐ手元にある絶望の快楽

やってみれば？
なんて簡単に言ったり出来ないけれど
新しい物を見るのに勇気は要るけれど

飛び出してみないと何も見えない
掴んでみないとその形は分からない

今までの失敗から
臆病になってしまっている心

また折れたら
出来る限り私が代わりの支えになるから

大丈夫。
声に出して言ってごらん

「大丈夫。」

傷跡

痛みも傷もはっきり見ることが出来るから安心するのだと
身体を傷付けることを選んだ私と
傷は見えないけれど痛みも大きくて自分への罰にもなると
心を傷付けることを選んだあなた。

私の傷跡にキスをしてくれたあなたに
私はどうキスを返せばいいのですか？

あなたの傷はとても深くて遠くて、その分心も見えません
あなたに触れたくても、何処に手をのばせばいいのか
わからなくて
少しの間彷徨わせて結局は
その頭を撫でることに落ち着いているのだけれど

私は本当は、あなたの傷跡に触れたいです
苦しみを理解したかったから

それも少し昔のことで
今、あなたは何もなかったかのように笑っているけれど
きっとその胸の奥にはまだ傷穴がぽっかり口をあけていて
そして、未だに広がり続けているのでしょうね

それがとても悲しいです

報復

貴方に今、何の関心も持てないこと

結局のところ、それは
貴方が私を捨てていったことへの
私の報復なのだ

例え結果的に、
私から見限ったことになろうとも

止められないもの

あなたと離れることが、こんなに悲しいなんて
あなたに会えないことが、こんなに苦しいなんて

恋なんてしたくないよ こんな感情、要らないよ
でも多分もう、止められないんだ

伝えることが怖くて、何時も笑って誤魔化す
本当は気持ち全部伝えたいけれど、
否定をされることに怯えるばかりで

恋なんてしたくないよ こんな感情、苦しいよ
でもあなたへの愛情が消えない

止められないんだ 忘れてたのに

あとがき

はじめまして、または二度目まして。

作成者の指守です。

詩集第二弾となった今回ですが、

恋愛系を多めに入れてみました。

書籍のタイトルとなった「青春マッチポンプ」は

大昔に妹がつけてくれた私のHNより。

何だかんだで気に入っている言葉なのです。

ほぼ書き下ろしで作ってみたのですが...

どうでしょうか...

もし気に入っていただけたらとても嬉しいです。

次はまた暗めのものにしたいな。

その時はよろしくお願いしますm(__)m

はじめて、もしくは再度あなたに出会えたことに感謝を。

写真・イラスト・文章：指守 要

サイトurl：<http://karaitoma.web.fc2.com/>

青春マッチポンプ

<http://p.booklog.jp/book/77872>

著者：指守 要

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/karaitoma/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77872>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77872>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ